

排泄予測デバイスの使用を開始

介護生産性向上の取り組みの一環として、当施設では昨年12月より排泄予測デバイス「DFree Professional」の使用を開始しました。

「DFree」について簡単に説明しますと、超音波センサが内蔵されたデバイス（左上写真）をご利用者様に装着していただき、膀胱内に尿がたまるとの常時モニタリングすることで、適時の排泄ケアにつなげることができるといいます。排尿を予測する機器になります。

当施設では、5月にトライアルを実施し、排泄ケア委員会や生産性向上委員会での検討を経て、施設の強みである「トイレでの排泄」を推進する上で有効ではないかとの結論に至り、このたびの本格導入となりました。

使用を開始し、まだ間もないですが、適時のトイレ誘導やおむつ交換が可能となれば、ご利用者様の排泄の失敗による不安や不快感を軽減し、ご利用者様の自信と職員のモチベーションアップにつながられるのではないかと期待しております。

今後、DFree様の伴走支援をいただきながら、積極的に活用を進めていきたいと思っております。

当施設における排泄ケアの取り組み

トイレで排泄するためには、尿意・便意を感じ、トイレの場所や使い方を理解する認知機能と、トイレまで歩き、ズボン等を下ろす運動機能が保たれていることが必要ですが、当施設では、そのような機能が低下した方でもできるだけトイレで排泄していただけるよう支援しています。

きっかけは、須賀川市の特養「シオンの園」様で研修をさせていただいたリーダー格の介護員がユニットケアの取り組みに感銘を受け、平成15年度に当施設でグループケアを導入するにあたって、トイレでの排泄に重点的に取り組み始めたこと。そして、平成24年度に全国老施設主催の「介護力向上講習会」に参加したことです。以来、当施設ではトイレでの排泄支援に注力しています。



キックオフ説明会の様子

クリスマス会

クリスマス会を12月25日に行いました。職員によるハンドベルの演奏を聴いたり、クリスマスソング（ジングルベル、赤鼻のトナカイ）を歌ったりしました。途中、サンタクロースが登場すると、びっくりしながら喜んで拍手で歓迎していました。また、サンタクロースの顔のイラストの髭の部分くり抜いた穴に玉を投げ入れるという「ディスクサンタゲーム」を行い、ご利用者様は身を乗り出しながら一生懸命に球を入れていました。ゲームの後は、ムースとシャンパンを召し上げられ、楽しいひと時を過ごされました。

当日は、クリスマスメニューの昼食が提供され、普段と違う食器を使った豪華なお食事に、ご利用者様は「おいしいね」と雰囲気を楽しみながら召し上げられました。

